

オオアレチノギク (キク科)

Conyza sumatrensis

大形の越年草ないし2年草、ときに1年草。大正年間に渡来し全国的に広まった帰化植物。荒地、休耕地、草地、道ばたなどに多く生育。普通は発芽後ロゼットで過ごす期間が長く、生育期間は1年を超える。ときには短期間で生活環を終える個体もある。



ロゼット 根生葉には粗く低い鋸歯。白毛が密生



芽生え [5月]

全体に白毛が密生



頭花 少数の管状花と多数の舌状花がある。舌状弁は目立たない

花期8~10月。花序は大きな円錐状。枝に頭花をつける

夏期には高さ1~1.8mになる。果実は冠毛がのび風で飛散する



ロゼット 根生葉は縁に鈍い鋸歯、まばらに長毛



芽生え

開出毛が散生する



夏期8~10月。花序全体は円錐~円筒状

→
ヒメムカシヨモギとオオアレチノギクの混生。夏期には高さ1~1.8mになる [8月]



頭花 やや小さく、細かくつく。白い舌状花が見える

成長の途中 [6月]



ヒメムカシヨモギ (キク科)

Conyza canadensis

大形の越年草ときに1年草。明治初期に渡来し急速に全国に広まった帰化植物。鉄道草と呼ばれたのはその分布拡大のようすを表している。空き地、休耕初期の畑、芝地、道ばたなどに多く生育。攪乱された土地に先駆的に入り込み群生する。ムカシヨモギは本州中部や北海道の山地に生育する。

